

4 終了者の地域での生活等実態に関する調査研究について（報告）

別府重度障害者センター 支援課

山下庄二 有馬昭郎 中山修司 水本達也 水谷彰 齊藤ひかり

1 はじめに

この調査は別府重度障害者センター（以下「当センター」という。）利用後に地域で生活している頸髄・脊髄損傷者の状況やニーズを把握し、「当センターが提供している自立訓練（機能訓練）サービスが利用者の終了後の生活に活かされているか」、「当センターに求められているサービスは何か」等を明らかにすることを目的に実施した。平成30年度中に報告書作成の予定であるが、今回はこの調査結果の分析について途中経過を報告する。

2 調査の概要

「基本情報について」「健康管理について」「日常生活動作について」「外出について」「就労状況について」「各種制度利用について」「余暇について」「当センターのサービスについて」の8項目について設問を設け、対象となる終了者に回答をお願いした。対象者は平成10年4月1日から平成27年3月31日に当センターを利用開始し、終了した頸髄・脊髄損傷者460名とし、120名の終了者から有効回答があった。

3 分析結果

特徴的な分析結果について以下に記載する。

- ① 健康管理：排泄上の管理や褥瘡予防など多くの方が「気をつけている」「支援が役立っている」と答えており終了後の生活に活かされていると言える。多くの方にとって医療的なケアが必須であり、地域資源（移動面や病院等）の活用や自己健康管理へ向けての支援が大切である。
- ② 日常生活動作：当センターの自立訓練により多くの方の日常生活動作が向上し、かつ終了後、本調査時においても概ね維持できている。また、多くの方が機能維持の重要性を認識し、留意している状況もわかったが、体力低下等により動作ができなくなっている人もいるので機能を落とさないように支援することが課題である。
- ③ 就労：自立訓練と並行して行う職能訓練（パソコン・手工芸）の効果もあり、地域移行後に就労を果たした事例もあるが、約6割の方が就労していない状況があり、今後、就労の促進が図られるよう支援の検討が必要である。

4 今後の予定

- ① 調査により、当センターの訓練や支援が活かされていることが窺えた。この調査を基に、利用者の地域移行支援を含めサービスの充実を図っていく。
- ② 引き続き、利用者自らが健康管理や機能維持等への関心を高く持ち、終了後も実践できるよう、訓練や支援の充実を図っていく。併せて、就労については在宅就労に向けた支援や職場環境調整、適応のための訓練等について、取り組むことを検討していく。